

# 配付資料 1：預言者の祈り



預言者ジョセフ・スミスはグリーンビル滞在中に、町のはずれにある森に毎日のように行って、祈り、瞑想しました。ジョセフはそこで瞑想し、祈ったときに思ったり感じたりしたことを、妻エマへの手紙にこう書いています。



「わたしは人生における過去のあらゆる瞬間を思い浮かべ、心の敵が自分を支配する大きな力を持つのをこれまで許してきた自分の愚かさを嘆き、悲しみの涙を流すのです。しかし神は憐れみ深く、わたしの罪を赦してくださっており、……

……わたしは……神の召しに従って進む用意ができています。キリストとともにいることがわたしの望みです。神の御心を行うこと〔以上に〕自分の命が大事だとは思いません。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』243 - 244）

- ジョセフ・スミスの模範から、どのような原則を学ぶことができるでしょうか。
- 神から命じられることを何でも喜んで行う意思がジョセフ・スミスにあったことは、この手紙のどんなところに表れているでしょうか。